

温浴施設で地域のエネルギーと経済の循環を実現（道志村）

(1) 目的・事業概要

・道志村は、バイオスタウン構想を掲げ、その一環として村営の温泉施設「道志の湯」の加熱に、間伐材を利用した木質バイオマスボイラー5基の導入を図った。それにより現在は、従来使用していた重油ボイラーを補助装置として利用している。

・本プロジェクトでは、薪を燃焼できるボイラーを導入することで、小径木が利用可能となり、含水量や加工コストの制約が解消されるとともに、村内の間伐材利用の促進が図られている。

(2) 効果・ポイント

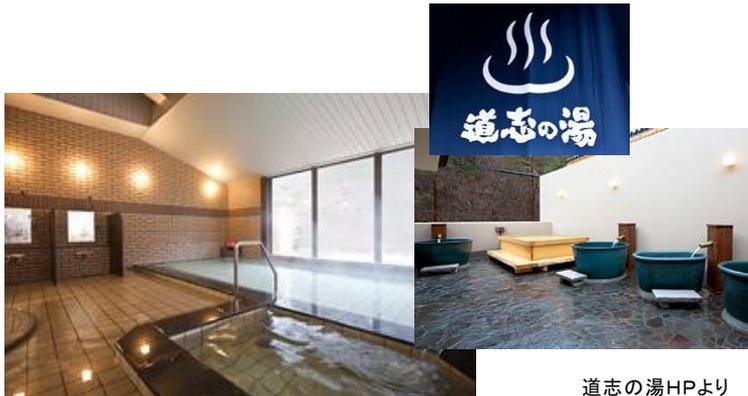
・年間のランニングコストが、1,800万円から1,320万円に削減されるとともに、薪代や人件費等の700万円が地域内循環に置き換わっている。

・薪の買取と運搬を、NPO道志・森づくりネットワークが担い、木材保管場所である「木の駅」を設置し、そこで林家から購入した木材を保管・管理し、「道志の湯」へ運搬している。

・木質ボイラーで地域の森林資源、間伐材を燃料として利用（買取）することによって、荒廃した森林を整備するインセンティブを創出。

・重油ボイラーから木質バイオマスに転換することによるCO₂の削減効果やコスト削減効果があがっている。

・今後の課題として、ボイラーの燃焼が不安定な場合、煙が発生していることから、それに対する対策が必要。



道志の湯HPより

■ 事業の主な内容

出典：道志村HP、一般社団法人 新エネルギー導入促進協議会

項目	内容
事業名	「道志の湯」木質バイオマスボイラー利用システム整備事業
発注者	山梨県道志村
整備内容・規模	<ul style="list-style-type: none"> ・道志村バイオスタウン計画の一環として、木質バイオマスボイラーを5基整備 ・木質バイオマスボイラ 75KW×5基=375KW
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・源泉を加温するための熱源として、従来は重油ボイラーのみであったものを、バイオマスボイラーを導入することによるCO₂の削減、省エネ、地域経済フロー（活性化）を実現・計画協力 株式会社 森のエネルギー研究所 ・補助装置として重油ボイラーを併用 ・設備稼働状況 木質バイオマスボイラー 60%~80% 重油ボイラー 20%~40% ・年間薪材必要量 1.83t/日×315日=577t/年 (全幹木 3,400~4,080本/年相当)
事業方式	・指定管理者制度(株式会社どうし)
選定事業者	・指定管理者(株)どうし・薪買取・運搬 NPO道志・森づくりネットワーク
事業期間	・2012年4月より5基設置・稼働開始
選定方法	・事業提案方式(一般社団法人 新エネルギー導入促進協議会『平成23年度再生可能エネルギー熱利用加速化支援対策事業』を活用)
審査方式	・提案内容に関する審査・採択
整備費用	・薪ボイラー設備工事費 4,434万円(ボイラー棟建屋の建設費等を除く)

■ 事業による経済効果(百万円)

従来手法	新手法	削減額	削減率	経費節減効果に加え、従来手法では地域外に流出していた700万円/年間の経済効果が地域で循環するようになった。
18.0	13.2	4.8	26.7%	